

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491000077		
法人名	有限会社 福祉オフィス中村		
事業所名	海岸通り グループホーム南風		
所在地	三重県尾鷲市新田町21-5		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和2年3月30日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JievosvoCd=2491000077-008PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	2年	2月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的かつ開放感のある環境の中で、個々の有する能力に応じてゆったりとした生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立8年目の事業所である。住宅地の中に位置しており玄関先でレクリエーション等をしていたら、近隣の方から声をかけられたり一緒に歌を歌ったりして、地域との交流が日常的に行われている。管理者・職員は、家庭的な雰囲気を作るにはどのように職員として対応するのかを常に考えながら利用者に対応している。徘徊行為のある方には本人が納得するまで利用者につき添い、無理にホームに連れ戻そうとはしない対応を根気強く行っている。また、出来る限り本人の有する能力を生活の中で発揮してもらうために、職員が手出し過ぎないように心がけている。利用者中心の処遇を目指して、職員の自由な発想と行動を大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の目的を定期的に会議の場等で理解し共有している。また、新人研修の場においても丁寧に説明を行っている。	ホーム内に理念を掲示することは、家庭的ではないという理由で、職員向けに事務所内でのみ掲示している。しかし、職員会議等では基本理念に沿った処遇になっているかは常に検証している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物等は減りつつあるが、日常的な近隣住民との関わりがある。顔を合わすや日常の会話があり、外でレクリエーションをしていると話にきてくれる近隣住民もいる。	住宅地に立地しているため、玄関先でレクリエーションや合唱には、歩道を歩く近隣住民が飛び入りで参加することもある。近隣の店への買い物、散歩でのふれあいを積極的にやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修等は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。サービスの実際や利用者の状態、事業所の取り組み等を報告している。委員からの意見は毎回多く出され、サービス向上に行かしている。	議論が白熱することが多く、一時間以内に収まらないこともあるほど活発である。新人職員は、事業所内の仕事を覚えると同じぐらい、地域住民と交流することにも心がけるべきという貴重な意見ももらったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換に加え、その都度法制度等について教示してもらっている。	トラブルとなりそうな案件については、行政機関と事前に何度も打ち合わせを行い、事業所の考えに理解を求め、また、行政の考えも反映させながら、問題への対応に心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、内部研修等を通して身体拘束について正しく理解できるよう努めている。玄関は夜間以外は施錠しておらず出入りが自由に出来るようになっている。	職員会議の議題として定期的に取り上げ、資料に基づき研修している。また、全職員が拘束に関するレポートを定期的に取り上げ、自らの利用者への処遇を振り返る機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、内部研修等で職員間の理解を深めると共に、職員の介護負担の軽減を図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉を選びながら、丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が家族との関わりを大切にしており、自然な雰囲気の中で意見、要望等が聞けるように努めている。家族代表1名にはなるが、運営推進会議での意見交換や、苦情受付の窓口を設けている。	自分の意見を表現できる方には、日常的な会話の中から聞き出しているが、言語表現できない方に関しては、表情や行動を観察して推測している。家族には負担をかけない範囲で面会をお願いし、意見聴取し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上の会議、日々現場での意見交換、要望等を元に運営に反映出来るように努めている。また、年に1回個別で面談している。	職員会議の場で意見を出しやすくするため、ホーム内の仕事を分類し担当制にして、各自が発言できるようにしている。管理者は、職員との個別面談での職員の主張に耳を傾け、働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境に配慮し、日々意見交換を行っている。労働時間の適正化を計りストレスの少ない条件下での労働になるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や外部の研修で個人が習得した事を内部研修等でも活かしている。職員一人ひとりの熟成過程を把握し、働きながらトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席させていただいている。意見交換、活動、事例等を参考にしサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ自然にコミュニケーションを図り、本人の意向や、身体の状態に添ったサービスが提供出来るように努めている。日々安心した生活が送れるよう関係づくりにも配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関わりを理解し、重視している。家族の思いや要望等、しっかりと聞ける環境を整え、適切な支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を把握し、家族とも相談の上現時点で必要なサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての関わりを大切にし、家族に近い関わり方、支援に取り組んでいる。自然に役割を持ってもらい楽しみながら共同生活を送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族双方の想う気持ちに寄り添い、関係や継続していけるような役割が担えるよう考えながら、職員、利用者、家族の関係性や関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り地元の祭りや催しに参加している。外出も含めて馴染みの人や場所との関係が切れないように努めている。家族との外出や外泊も自由にしてもらっている。	馴染みとの支援には常に意識して取り組んでおり、買い物先や祭り等での出会いを大切にしている。正月に帰省する利用者も何人もいた。ドライブにも日常的に出かけ、思い出の場所や人との関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合いながら共同生活していく中で利用者同士の関わり方を把握し、互いが尊重し合えるような機会を設けサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談や立ち寄れる環境づくりに努めている。採れた野菜を届けてくれるなど関わりが継続している方がいたり、町で会っても気軽に声をかけてくれる方が多く関係性は維持できている方が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向をサービス計画書に位置付け、支援に生かしながら、利用者との関わりを大切にしながら、意向を把握する為極力決め付けないように支援している。職員間でも話し合いその都度検討している。	意思表示できる方は日常会話の中から聞き出すことに心がけ、表示できない方については本人の表情や家族等からの情報を参考にして思いを推測し、少しでも本人の思いや意向が反映される暮らしを支援すべく心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族、他事業所からの情報を元に生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	開放的で自由な時間が多く持てる環境を整え、ストレスの軽減を図りながら見守る支援をする中で現状を把握し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との関わりの中で得た情報を元に、会議等でもスタッフ間で意見を出し合い作成している。	計画作成の際には家族からの意見聴取もを行い、職員会議で共有している。三か月に一度のアセスメント結果表以外にも、毎月行っているモニタリングも記録として残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など記録に残し職員間で共有しやすい様に努め、介護計画や日々のケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の意向や状況を重視し柔軟な対応を心がけている。その時々必要性を考えた上で、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民との日常的な関わりが継続出来るように努力しながら、開放的な環境で自由に生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう利用者、家族、主治医との関係を築いていけるよう努めている。基本的に入所前からの主治医の所に通っている。	適切な医療を受けられるように毎回職員が同行して、暮らしぶりについて説明している。また、病気管理手帳等については、職員が記載して正確な情報を医師に伝え、受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の指導や法人内の看護師と意見、情報交換を行いながら連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当のケースワーカー、担当の看護師と情報交換を行い、利用者が安心して治療を受けられるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、又はその都度話し合いをし、主治医も交えて事業所でできる範囲の事を説明している。本人、家族の希望があれば看取りを行っていく方針で、協力医の了解も得ている。	入居時、病状や体調に著しい変動があった際には、家族・主治医・事業所の三者でターミナルについて意見交換し、その方針を決めて対応するようにしている。ターミナルケアの指針については、検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員全体で共有している。見直しと訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に防災訓練を実施している。近隣住民の協力も得ており、訓練中も屋外に出て訓練の様子を見てくれる方もいる。一度ご近所への報告を怠っており、驚かせてしまった事があった。	定期的に訓練は実施されており、夜間を想定した訓練も実施され、そのマニュアルも作られている。しかし、夜勤者が応援に駆け付けた職員への指示マニュアルが作成されておらず、スムーズな対応ができていない。	夜勤者が安心して、勤務に従事するためにも、応援に駆け付けた職員等への指示内容を時系列にマニュアル化することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について年1回事業所内で研修を行っている。職員全体で基本的な人との関わりを意識して、特に言葉遣いには注意している。	排泄や入浴の介助では、すべての利用者に対して一律な対応を行うのではなく、本人の能力と事故の危険性も考えながら一人の時間帯も作るように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定が出来るよう支援に取り組んでいる。思いや希望を言葉で表現する事が困難な場合でも、様々な事を参考に本人の思いに添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、個人の動きに合わせて職員側の動きも変えていけるよう、職員側の決まりごとは最小限にしている。自由な空間が維持出来ていると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみを基本にし、利用者の好み合わせ、家族が用意してくれた物や、自ら選んだ服でおしゃれが出来るように支援している。化粧はあまり取り入れていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等、時折参加してもらっている。野菜の処理等、出来なくなってきた利用者もおり、少し消極的になっている。買い物は日によって、人によって参加できている。	玉ねぎの皮むき、ネギの刻み等の野菜の下処理、洗い終わった食器の拭き取り、テーブル拭き等の作業に従事できる利用者が参加している。食事中は、クラシック音楽がBGMとして流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は内容のバランスの良さ、それぞれにあった量の提供を心がけている。朝食は起床後一人ひとり摂って頂いており、水分量は夜間の水筒の準備も加え少し多めに提供している。水分量が必要な方には日中別で水筒も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自分でのケアを行い、出来ない部分をサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を気持ちよく行えるように個別に支援している。時間を決めてのトイレ誘導、介助も行っている。日々排泄のチェックをし習慣把握に努めている。	チェックシートを用いて、排泄誘導のタイミングを計っている。夜間失禁の可能性が高い方には、パットの使用、防水シーツをシーツの下へ敷く等の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトと牛乳を提供し、野菜の多い食事の提供をしている。個別に水分量を調整したり、運動での働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日や時間帯は決めておらず、ほとんどの利用者が毎日入浴している。	毎日の入浴を基本としている。毎日の生活の中に入浴が位置付けているためか、拒否行動とる方はいない。利用者によっては一人で入浴し、それを職員が覗き見程度に見守る支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動から安眠につなげる事が出来ている。日中もその時々に応じて休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度服薬のマニュアル、独自に作った説明書を更新し、服薬内容の把握に努めている。症状の変化についてもその都度主治医の先生と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの嗜好に添った物を極力提供している。その時の要望に合わせて活動し気分転換にもなるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩など定期的に外出は行っており、人によっては、週に4～5回散歩に出る利用者もいるが、外に行きたいという利用者からの要望は少ない。家族との外食、外泊をされる利用者もいる。	外出については事業所をあげて取り組んでいる。玄関先でレクリエーションや近所の商店への買い物、散歩、ドライブ等も積極的に行い、外の空気を吸う、外気に触れる、地域の人々とのふれあいを大切に支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解があれば、本人の希望に応じて所持して頂いている。各自の買い物では極力自分で支払いしていただく支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡は自由にしている。意思疎通が困難な利用者に対してもお礼などの電話も職員がサポートし行っている。その時期に応じてはがきを出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ちながら現在の利用者に配慮した配置にしている。自然光をしっかりと入れながら、不快な刺激がない様に配慮している。季節感のある飾りは利用者で作成している。玄関の自動ドアは使い方が分らず混乱する場合もあるのでその都度付き添っている。	リビングルームには食卓・ソファが整理されて配置されており、食事・レクリエーション等が取り組みやすいように配慮されている。床暖房のため心地よい体感である。壁には季節感を出す作品が飾られ、心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかのパターンでホールが使えるように配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族と相談し配置を決めている。家具も使い慣れた物を置いている利用者もいるが、利便性を考えて新しい物を持ってこられる方も多い。それぞれの好みを活かして工夫している。	居室に畳を敷き和風に使っている人、自宅で使っていたベットやタンスを使っている人と思いいいに使っている。日中は基本的にリビングルームで活動的に過ごし、夜間は居室でゆったりと過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレには大きな表記をし自然に使えるような工夫をしている。生活の動線をしっかり作りながら、あまり物を置きすぎずわかり易いように配慮している。		